

天主閣

だより

マキキ聖城キリスト教会



「人と人をつなぐ神」

マキキ聖城キリスト教会牧師

具志堅 聖

クリスチャンになって以来、いつも心にとめていたことの一つ、それは「神さまのご計画」です。それは世の中の「運命」という概念とは全く異なったものです。聖書の神さまはその深い愛と恵みの内に、神を信じる者たちのためにあらかじめ備えておられるもの（出会い・出来事・発見など）を表してくださることを意味しています。その「計画」は、歴史的要因・地理的要因・人間関係要因などが含まれているため、私たちには容易に予測することはできません。また、それは私たちにとって楽しいこと・喜ばしいことばかりでなく、悲しいこと・辛いこと・涙することも含まれているので、祈りをもってその現実を受けとめる必要があります。キリストを信じる時、私たちはそのような世界観を神さまからいただくのです。

今回、私たちのマキキ教会の就任にあたって、神さまは真に不思議なことを表してくださいました。私は二〇〇二年より日本福音同盟の仕事を始めましたが、その際、住居を千葉市幕張地区に移しました。その地域に、福音同盟に所属する日本長老教会の伝道所がありました。私たちはその教会の牧師ご夫妻（廣橋嘉信・美穂）と親しくなり、その教会開拓の陰の応援団としてご近所付き合いをさせていただきました。私たちが滞在した

約九年の間に、その教会は十名前後から九十名ほどの群れに成長しました。国際色豊かで若さにあふれる教会となり、神さまの恵みを共に味わうことができました。

今年その地を離れるにあたり、廣橋牧師ご夫妻にマキキ教会就任の話をかち合ったところ、何とお二人は、本山ジュリア先生と河島民江先生によって信仰に導かれて、指導していただいた方々であったのです（驚き！）。また更に遡ると、この廣橋牧師ご夫妻と私たちの共通の友人が横浜に住んでいて、その方は河島民江先生と共同生活をして育てていただいた姉妹であったということが判明したので（更に驚き！）。私たちは、神さまのご計画の深さに驚嘆いたしました。

「主よ。あなたは私の神。私はあなたをあげ、あなたの御名をほめたたえます。あなたは遠い昔からの不思議なご計画を、まことに、忠実に成し遂げられました。」

（イザヤ書二五章一節）

聖書の神は人と人とを深いご計画の内につないでいてくださるお方です。読者の方にも同じ恵みがきつとあります。特別な、そして不思議なご計画がかならず。なぜならこのお方は『驚くべき神』だからです。主に栄光あれ！

のぞみの会便り

毎週二回水曜日と金曜日の九時、のぞみの会の参加者は雨にも負けず風にも負けず（！？）変わらない笑顔で集まってきました。遠くに住む人はボランティアや御家族の車で、そして近くに住む人はゆったりとした足取りで皆のぞみの会に集うのを楽しみにやっています。神様がいつも天の上からその様子を見ていらつしやることを想像します。皆安全に事故も怪我もなく集まることができ、楽しいときを過ごした後

もそれぞれの家や住む場所に安全に戻ることもできるのも神様が最後の一人まで見守ってくださっているからだと思ふのです。来たくても来られない人にも暖かい祈りが捧げられ、ケアホームや病院にお見舞いに行った人からの報告を受け全員でその健康を祈ることができると、ただの一人も忘れることなく愛してくださる神様のおかげだと感謝します。八月は一ヶ月夏休みでのぞみの会はお休みになります。がまた九月から元気な笑顔に会えますように。九月からボランティアやパフォーマンスなどをしてくださる方も募集しています。照子姉迄。

（直）

のぞみの会 毎週水・金 朝九時〜十二時

ドクター小林の独りごと



鳥が彼に、朝、パンと肉を、また夕べにも、パンと肉を運んで来た。

列王記上十七章：二節〜六節

東京で学生をしていた頃、私は狭い4畳半のアパートに住んでいました。ところが、そこに居候が転がり込んで来たのです。なんとか金を都合して食べておりましたが、私は牧師家庭で仕送りはありません。たちまち、最後にお昼を食べたらもう食料を買うお金がなくなってしまうました。すると、居候が、「ちよつと、考える所がある。2時間ほど出かける。」といつてどこかに行き、数時間後にいままで見えた事がないような高級食材を持ってだけでも帰ってきました。金色の蟹缶なんて生まれて初めてたべるようなものばかりでした。なんと、この居候、パチプロまがいの凄腕でした。その後も喰うに困るとパチンコで食料をしばしば調達しておりました。

要領がよいのか、この居候は教会にも行き、牧師先生や事務の方々に食料を「お世話になります。」と配って廻っており、やがて小

林兄弟はパチンコで喰ってららしいよと、ささやかれた時はすでに食べてしまった後で、誰も何も注意が出来ないようになっております。

狭い四畳半の隣りの六畳部屋が空いて、居候はそちらに移ると、夕食はもっぱら広い六畳の部屋で食べるようになりました。なにしろ家具も何も無くポストンバッグしかないもので、部屋がとにかくひろびろしておりました。テーブルも無いので段ボール箱をひっくり返して卓袱台にして、二〇センチぐらいの小さいテレビがあり、夜十一時頃から大相撲ダイジェストという番組を見ながらご飯を食べておりました。

「おれ、貴乃花（先代）のファンなんだ。貴乃花頑張れ！」と居候、しきりに貴乃花の応援をしておりましたが、そのうち、なんともう一人居候が私の部屋に転がり込んだのです。大男で、凶悪そうな面構えのくせに、ちよつとつつかとすぐ泣く奴で、その落差が面白い子でした。でも、すぐ泣くなんて外見じゃ誰も分かりませんから、用心棒として連れて歩くのには便利です。彼も大相撲ダイジェストを見ながら夕食を食べるようになりました。「ぼく、貴乃花のファンなんです。貴乃花頑張れ」と大男がいうと、先住の居候、「なんだと、お前なんか、おれの貴乃花、勝手に応援するんじゃない！」むつとして睨みあう二人、夜は更けていくのであります。

見よ。兄弟たちが一つになつて共に住むことは、なんとというしあわせ、なんとという楽しさであろう。詩篇一三二篇

（二人ともクリスチャンになり、現在でも熱心に教会で奉仕しております。）

今月の証

「二人ぼつち」

飯塚 ジェームス

僕が初めてマキキ教会に来たのは小学三年の頃でした。母親に無理やり連れてかれて、自分の中では何で大切な日曜日に昼間まで寝ていられないのか疑問に思いました。イエス様のことは少し聞いていたのですが、本当に誰なのか、教会は何なのかはまだ全然知りませんでした。

母の隣で礼拝に出ても先生のお話が理解できなくて、いつもサボっていました。お母さんが礼拝へ行っている間、廊下を一人で歩きながら「つまらないな」と頭の中で呟いていました。よく階段に座って長い時間一人でゲームをしていた時もありました。時々声をかけられたのですが、そのころの自分は引つ込み思考で、話し返す事ができませんでした。学校でもみんなが外で遊んでいる間、本が大好きだったのでひとり教室で本を読んでいるタイプでした。そんな憂鬱な日々から僕を救ってくれたのが日曜学校でした。

ある日、お母さんや悦子さんにサンデースクールの男子部へ行かないかと進められて、仕方なく行ってみることにしました。授業が行なわれている部屋は廊下を歩いている間よく通りかかりました。その時は何をしているのかは解らなかつたのですが、興味はありましたので時々ぞいでいました。サンデースクールの担当していた人はデービッド・バインズと名乗る面白いおじさん。彼は刑事で、ホノルル警察に勤めていました。警察なので常に拳銃を身に付けていて、男の子の自分は興味津々でした。まだ小学生だった僕にでも上から目線で話さず、初めて会った時から気に入っていました。いつの間にか僕は毎週授業に出席していました。だんだん聖書の理解も広まって、毎

日祈っていました。

数年たって、二〇〇八年のスプリングキャンプ中、ノースショアの明るい太陽と青空の下で僕はついに洗礼を受けました。振り返ってみますと、僕はイエス様にずっと導かれていました。教会へ行き始めた事、サンデースクールへ参加した事、新しい友達ができた事。いつでも神様が手をつないでいてくれました。僕は今になって決して一人ではなかったことが解りました。

時は過ぎて今僕は高校三年生としての一年をハワイ・バプティスト・アカデミーというクリスチャンスクールで始めようとしています。現在はマキキ・ユース・バンドにて、ベースとボーカルを担当しています。サンデースクールは卒業して、今は礼拝に毎週参加して月に一度は説教通訳の奉仕もしています。教会へ通い続けてから一つ気付いた事は友情と交わりの大切さです。僕は一年半くらい前から毎週金曜日に行なわれる学生バイブルスタディーに参加していて、そこでは友達をたくさん作ることができました。同じ教会に行っている今迄あまり知らなかつた人達と親しい仲間になることができました。教会の友達達は「Friends」ではなく、「Brothers and Sisters in Christ」なのです。共にキリストの道を歩む者同士として支えあい、慰めあい、いつかこの世での生活が終わってもいつかまた天国で会える希望があります。

僕の願いは、神様が、日本にいる僕の愛するおばあちゃんを見守り続けて下さる事、おばあちゃんやバイブルスタディーの仲間全員、お世話になった高知の人々が救われる事です。その為に祈ります。

フェスティバル・オブ・サンクスギビング

マキキ秋の大イベント、フェスティバルの中の2大プログラムが「トレジャー・アーキ(宝の箱)」と「テイスト・オブ・ヘブン(天国の味)＋クラフトコーナー」です。名前に負けない掘り出し物とおいしい食べ物を楽しみにしていてください。ドネーション、ボランティアも募集しています。

9月3日(土) 朝9時〜午後1時

編集後記

八月から新学年ですね。プリスクールから大学まで新しい学校生活をはじめの人、そして新しい学年で新たなスタートを切る人。皆それぞれ緊張の一月月でしょうが体に気をつけてがんばってくださいね！無駄な経験は何一つないと思います。神様がそこにいてくださるから安心してチャレンジしていきましょう！応援しています。

大塩 直子

テリーさんの簡単クッキング

豚肉のから揚げ香りソース

日本では今年の夏、節電と暑さから揚げ物はお惣菜屋で買うことが多いそうです。皆大好きなから揚げを心置きなく家で作れるのは感謝です。

<材料>

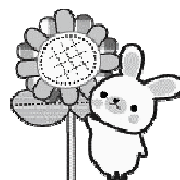
- 豚肉ロース(かたまり) 300g
- 肉下味用: 砂糖小さじ1、酒大さじ1、しょうゆ大さじ1
- かたくり粉大さじ3、揚げ油適量、こまつな

<香りソース>

- みじん切りで ①ねぎ大さじ1 ②にんにく小さじ1
- ③しょうが小さじ1
- 砂糖大さじ1/2、しょうゆ大さじ2、酒大さじ1、酢大さじ1、ごま油小さじ1

- ① 肉は1センチ幅5センチ長さの棒状に切り 10分下味につける
- ② こまつなはゆで、水に入れ4-5センチ長さに切る
- ③ ソースの材料を合わせる
- ④ 肉の汁気をふいて、かたくり粉をまぶし余分な粉をおとし油(170℃)で肉を揚げる
- ⑤ 皿にこまつなを敷き肉をのせてソースをかける

責任者 松浦 由紀子・大塩直子
 編集者 玉寄 朋子
 マキキ聖城キリスト教会 宣教師部



玉寄 朋子

天主閣便りも ニュービギニングスです。今まで」と「これから」のコーボレーション！パワーアップできるようなマキキ教会皆さまのご協力をお願い致します。ご意見やご投稿をお待ちしています。松浦 由紀子